

2019年01月22日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【「米ドル/円」の特徴】

通貨の特徴について考察します。

通貨の特徴を考える時、

「米ドルは？ ユーロは？ 円は？」

というように単独で考えがちです。

しかし、FX取引において、通貨の特徴を考えるのならば、米ドル/円、ユーロ/米ドル、ユーロ/円というように、二つの通貨を組み合わせた通貨ペアで考える必要があります。

日本でFX取引している投資家にとって、一番身近な通貨ペアは「米ドル/円」でしょう。

ニュースでも頻繁に取り上げられるために、国内投資家は世界で最もメジャーな通貨ペアのような印象を抱きがちですが、外国為替市場全体で見ると、取引量でも手がける投資家の数でもナンバーワンの通貨ペアは、「ユーロ/米ドル」です。

「米ドル/円」は次いで2番目に位置していますが、特殊性も備えていて、誤解を恐れず評価するなら

『大いなるアジアのローカル通貨（ローカル・カレンシー）』

といえるでしょう。

例えば、ユーロ/米ドルが上昇、ポンド/米ドルも上昇しているときには、「ドル安」の値動きですから、通常ならば、米ドル/円は下落していくはずですが。

ところが、時として、ユーロ/円のような米ドルが絡まない通貨ペアであるクロス円の影響から、米ドル/円が上昇することがあるのです。

このような特殊性には十分に留意しなければなりません。

+++++

また、面白いことに、日本円は、日本人同様に律儀な性格に感じます。

米ドル／円の値動きには、日本の国民性が現れるのか「律儀」な性格を備えています。

必ずそうなるというわけではありませんが、例えば、相場が大きく転換するポイントであるチャート・ポイントをブレイクしない時は、チャート・ポイントに近づいていってもタッチしないか、タッチしたとしても5ポイントか、せいぜい10ポイントほどしか行き過ぎることはありません。

ブレイクしない時は律儀にチャート・ポイントを守っているのです。

そのため、逆に、10ポイントを超えて20ポイントに達した時は、チャート・ポイントはブレイクされたと判断しても良いほどです。

それに対して、ユーロ／米ドルは「奔放」です。

チャート・ポイントを大きく突き破ったのに、また戻ってきて結果的にチャート・ポイントが守られることがあります。

こういった値動きを「フェイク（だまし）」と呼びますが、「ポンド／米ドル」ではもっと激しくフェイクが起こります。

つまり、「米ドル／円」ではあまりフェイクが起こらないのです。

ただ経済指標に対する反応は、「米ドル／円」よりも「ユーロ／米ドル」のほうが素直だ、と言えます。

良い材料が出たのなら良い方向に動き、悪材料なら悪い方向へ素直に動きます。

その点、「米ドル／円」は経済指標には鈍く、相場の流れに対しては律儀といえるでしょう。

+++++

米ドル／円を取引する際には、値段に対して「値ごろ感」を持たないように努めることも、重要です。

他の通貨ペアと比較すると「米ドル／円」は扱いやすい性質と言えるので、日本円になじんでいる人は「米ドル／円」を中心に取引すると良いでしょう。

だからこそ、注意点もあります。

それは「値ごろ感」が生まれやすいことです。

例えば、

「ついこの間まで 115 円だったのに今は 105 円。こんなに安くなったのだから買ってみよう」

というように考えるのが「値ごろ感」です。

115 円から 105 円に下がってきたのには理由があるはず。

そのため 105 円という絶対値に対して、安い高いといった思惑を持たないほうが良いのですが、どうしても円が絡むと過去の値段の記憶が強く残ってしまうために、「値ごろ感」が判断に影響を与えがちです。

この点だけは十分に気をつけたほうが良いでしょう。

+++++

(2019 年 01 月 22 日東京時間 14 : 45 記述)